

[横浜能楽堂]
 令和4年度業務報告及び収支決算
 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※ 文中の事業欄において、
 ●:主催事業 ○:共催事業
 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □:定量的指標 ■:定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜能楽堂
所在地	横浜市西区紅葉ヶ丘 27-2
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上2階地下2階建
敷地・延床面積	延床面積 5,695.93 m ²
開館日	1996年(平成8年)6月28日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地
代表者	理事長 近藤誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成8年6月28日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜能楽堂は、能楽を中心とした古典芸能の専門施設として古典芸能の普及と振興を通じて地域に貢献し、市民に信頼と期待を寄せられる横浜にとって欠くことができない拠点施設となることを目指します。これまでの運営経験とノウハウを活かし、次の5つの方針で施設の管理運営と事業実施に取り組みます。

1. 横浜能楽堂ならではの事業企画による能楽の普及と新たな観客の創造

能楽ファン向けの本格的な公演や初心者でも楽しめる工夫を凝らした普及公演、またワークショップや能楽講座など多彩なラインナップで幅広い観客の期待に応える事業を実施します。

2. 次世代育成事業の実施と次代を担う人材への働きかけ
学校や地域と連携し、子どもの創造性や感受性を育む事業を実施します。事業の企画力を担保するために職員の専門能力を高めます。
3. 利用者ニーズに沿った貸館対応と広報による施設の利活用の促進
稽古や発表会でも使いやすい施設となるように利用者の利便性を高め、また効果的なPRにより利用者を増やします。
4. 能楽堂の価値の発信を続け、エリアの魅力づくりにも貢献
文化財としての能舞台の保存と活用のバランスを取りながら、見学会等を通じて能楽堂という建物自体の価値を高め、能楽堂ファンを増やします。周辺文化施設と連携し、紅葉坂エリアの魅力づくりにも寄与します。
5. 施設の安全安心を確保し、安定的な経営を実現
施設の適切な管理、効率的な業務の実施、財源の確保、職員の効果的な配置により、施設経営の基盤を整えます。

(2) 令和4年度の業務の方針の振り返り

ア 全体について

第4期指定管理の初年度となる本年は、新たな提案事項実現の基盤づくりの年度であり、また、コロナ禍で落ち込んだ客足や施設利用を回復させることに重点を置いた取り組みを行いました。

主催事業では、初心者を含め気軽に鑑賞できる普及公演で公演時の字幕解説の配信、公演に先立った解説動画の公開など、鑑賞サポートを充実させました。また、特別公演「三老女」シリーズや琉球芸能公演など、横浜能楽堂ならではの企画力を活かした公演を開催しました。

第3期から継続して力を入れている来館促進プロモーション事業は、地域の団体や文化施設とのネットワークも活用し、一度能楽堂に足を運んでもらい、興味・関心を持っていただくきっかけを作りました。

施設管理については、開館26年目を迎え施設や整備の老朽化や不具合が進行していますが、日常点検を強化し、施設運営に影響が出ないように努めました。

イ 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

横浜能楽堂ならではの企画性を活かした事業により、古典芸能の魅力を伝えます。鑑賞、体験、学びを通して新たな観客や能楽ファンを創造します。

ウ 使命2 能楽等に携わる人材を育む

子どもたちの創造性や感受性を育む事業に取り組み、また時代を担う若手の演じ手を積極的に支援します。能楽堂の事業を推進するための専門職員の育成を図ります。

エ 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

施設利用における利便性を高めることで利用者を増やし、市民の活動拠点となります。クリエイティブ・インクルージョンの視点から多くの市民の参加機会を作ります。

オ 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

建物自体が大きな魅力にあふれています。能楽と能舞台、その価値の発信を続け、市民にとって誇れる地域資源となることを目指します。

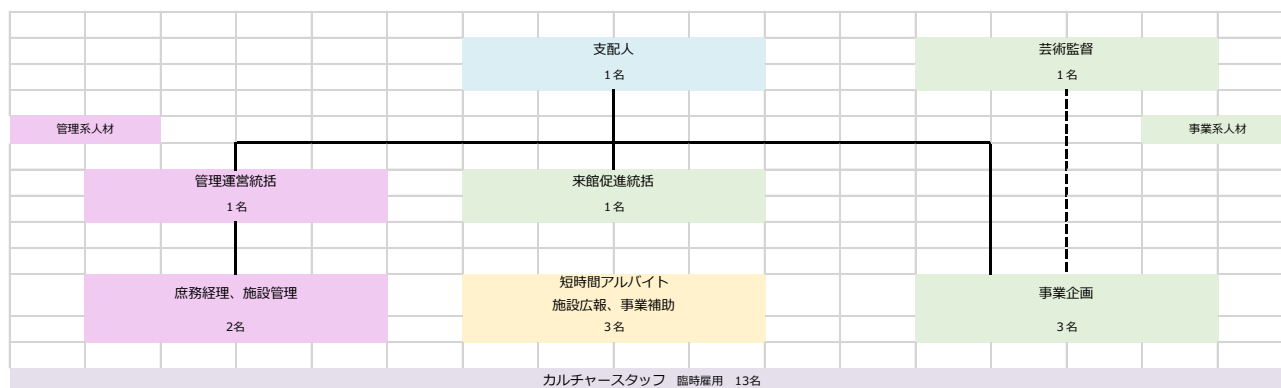
カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

施設の保守・点検、防災・防犯・感染症対策等を通じて安心安全な施設として運営します。効果的な経費執行や収入増にも引き続き取り組みます。

キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

コロナ禍の経験を活かし、新しい生活様式に対応した手法のもと、感染症対策と社会経済活動の両立を図り、横浜能楽堂としての活動を継続します。

4 運営組織の構造、人員配置



横浜能楽堂全体の統括責任者として“支配人”を配置し、施設経営全体を統括しました。“芸術監督”を配置し、能楽・古典芸能の専門施設としての芸術面での監修責任者となりました。

支配人の下に、庶務経理・施設管理・貸館・施設広報を実務統括し、支配人を補佐する“管理運営統括”を配置、来館促進統括が、管理系の職員、アルバイトと来館促進事業を担当、事業については支配人と連携し、芸術監督が直接統括しました。

日常の運営は支配人が統括しますが、勤務シフト上不在の場合には管理運営統括(または来館促進統括)が代行しました。

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

令和4年度は、特別公演シリーズや新しい観客の創造を図る普及公演、オンラインを活用した事業に取組みました。次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施しました。

(2) 能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供(施設運営)

施設利用の回復と新規利用者の開拓に重点的に取り組みました。

(3) 来館促進プロモーション事業

令和4年度は、和のワークショップやオープンデー、多彩な見学会の実施など能楽堂の魅力を伝える事業に重点的に取り組みました。

(4) 施設管理

令和4年度は、経年劣化や不具合に適切に対応し、安心・安全な施設の維持に重点的に取り組みました。

(5) 収支

令和4年度は、光熱水料費の大幅に値上がりしましたが、集客の回復や助成金の獲得など指定管理料以外の収入の確保により、全体の収支に大きな影響はありませんでした。

(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和4年度は、業務計画書や完了確認表など各種帳票の作成を適切に実施しました。

(7) その他

令和4年度は、プロデューサー(古典芸能)など職員の専門人材としての育成に取り組みました。財団専門人材研修に参加し、他施設プロデューサーとの意見交換なども頻繁に行いました。また、大学との連携も実施しました。

※ 5 (1) ~ (7) の具体的な取組内容や指標は、完了確認表に記載しました。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	事業のメニューの実施数	7メニュー	8メニュー				11メニュー	
2	自主事業の入場者数	9,432名	8,500名				9,500名	
3	入場者の満足度(アンケート調査)	4.67	4.5以上				4.5以上	
4	総来場者数	13,790名	16,000名				18,000名	
5	各事業のターゲット設定及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割合(アンケート集計)	①鑑賞経験あり	88.7%	特別公演&企画公演70%以上			特別公演&企画公演70%以上	
		②鑑賞経験2回以内、初来館	27.5%	普及公演20%以上			普及公演30%以上	
		③実技初心者	98%	能楽ワークショップ、講座50%以上			能楽ワークショップ、講座50%以上	

6★	「バリアフリー能」への鑑賞サポートツール導入数	37件	40件以上 (2年間累計)				100件以上 (5年間累計)	
7★	公演事業の設定座席数に対する入場率	83.8%	80%以上				85%以上	
8★	解説動画視聴数	5,201回	2,000回以上 (2年間累計)				5,000回以上 (5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	入場者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	
2★	「バリアフリー能」に関する福祉団体等インタビュー調査	R4実績	調査を元に既存サポートに加え、「なんでもシェア会」や送迎車サービスを実施
		R5達成指標	サポート導入に反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	サポート導入に反映、被評価
		R8実績	

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

能楽ファンの期待に応える特別企画公演シリーズ、沖縄本土復帰50年を記念した企画公演など横浜能楽堂の企画力を活かした公演を開催しました。普及公演を、動画配信や上演時解説配信などの鑑賞サポートを充実させて実施しました。

能楽ワークショップや講座、展示など多角的に事業を実施しました。広報や販売促進に注力し、入場率の回復と事業収支の改善に取り組みました。

(2) 使命2 能楽等に携わる人材を育む

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績
1	次世代育成を目的とした事業の実施回数	11回	計9回				計10回	
2	参加者の満足度(アンケート調査)	4.84	4.5以上				4.5以上	
3★	「こども狂言堂」設定座席に対する入場率	87.1%	90%以上				90%以上	
4★	「先生のための狂言講座」の参加者数	87名	100名以上				120名以上	
5★	学校見学会、教育旅行の問い合わせ数	10件	3件				5件	

6 ★	狂言「柿山伏」を使った取組	準備中	3件 (2年間累計)				5件 (5年間累計)	
7 ★	プロデューサーによる「WEB版研紀要」掲載	ブログ執筆済、掲載準備中	4本以上 (2年間累計)				10本以上 (5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

今年度も子どもの創造性を育む次世代育成事業を実施しました。子ども向け公演、ワークショップ、学校アウトリーチ、教員向け講座に加え、学校や保護者との連携強化に重点的に取り組みました。プログラムの執筆や解説動画制作(使命1にも該当)を通じて、職員の専門能力の向上も図りました。

(3) 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	貸館利用者数	34,750名	36,500名				38,000名	
2	利用者の満足度(アンケート調査)	アンケート未実施	施設の快適性への満足度4.0以上				施設の快適性への満足度4.0以上	
3	貸館利用の相談/広報支援件数	10件	相談10件以上				相談20件以上	
		23団体、59件	広報支援20団体、30件以上				広報支援20団体、30件以上	
4 ★	本舞台、第二舞台の利用率(日換算)	40%	本舞台39%以上				本舞台40%以上	
		60%	第二舞台52%以上				第二舞台55%以上	
5 ★	利用料金収入額	12,989,435円	15,200千円以上				16,000千円以上	
6 ★	新規利用向け割引制度利用実績	12件	20件以上(2年間累計)				60件以上(5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握(利用者との意見交換等)	R4実績	稽古場代替施設に関するヒアリング:19 団体
		R5達成指標	利用者インタビュー:年 12 団体以上(新規団体を含む)
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	利用者インタビュー:年 15 団体以上(新規団体を含む)
		R8実績	

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

コロナ禍で低迷した施設利用率を回復させることに取り組みました。初めての利用を促進する割引制度や若者向けのお試し利用会を効果的に運用することで新規利用につなげました。

(4) 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	媒体ごとの 広報実績数	新聞・雑誌	49 回	35 回 以上			50 回 以上	
		広報よこはま	5 回	6 回 以上			6 回 以上	
		広報よこはま 西区版	7 回	6 回 以上			6 回 以上	
		地域情報誌	36 回	15 回 以上			20 回 以上	
		SNS (Twitter、 Facebook)	238 回	250 回 以上			350 回 以上	
		他社 WEB サイト	68 回	10 回 以上			20 回 以上	
2	能楽等や能 舞台、能舞 台の歴史・ 魅力を発信 する事業数	オープンデー	1 回	1 回			1 回	
		定例見学会	9 回	9 回			9 回	
		特別見学会	3 回	3 回			3 回	
		バリアフリー 見学会	2 回	2 回			2 回	
		多言語対応 見学会	2 回	1 回			2 回	
		学校見学会	6 回	6 回			6 回	
		旅行企画見学会	0 回	2 回			2 回	
3	アフターコン ベンションの アプローチ 件数	問い合わせ、 見学	3 回	5 回 以上			7 回 以上	
4 ★	「伝統文化一日体験オープンデー」参加者数	725 名	400 名 以上				450 名 以上	
5 ★	「和のワークショップと能楽堂見学」初来館率	28%	40% 以上				50% 以上	

6 ★	横浜能楽堂の市民認知度	59.8%	65% 以上				70% 以上	
--------	-------------	-------	-----------	--	--	--	-----------	--

イ 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	広報手法の分析	R4実績	分析手法についてリサーチを検討
		R5達成指標	実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	実施
		R8実績	
2	アフターコンベンションメニューへの意見	R4実績	企業・旅行者からの問合せ3件
		R5達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R8実績	
3 ★	「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」での連携取組	R4実績	3件
		R5達成指標	5件以上(2年間累計)
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	12件以上(5年間累計)
		R8実績	

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

オープンデーや多彩な施設見学会、VRなどデジタルコンテンツを活用した施設案内など、施設の魅力を伝える事業に引き続き重点的に取り組みました。能楽に限定しない興味に応えるために、和のワークショップシリーズ等を開催し、幅広い市民に来館していただけるよう注力しました。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件				0件	
2	法定点検等の実施率	100%	100%				100%	
3	修繕予算の執行率	24.6%	90%				90%	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	アンケート自由記述欄を参考に、大規模改修の要望等検討
		R5達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
		R8実績	
2	管理運営費推移の要因分析	R4実績	空調の運用見直し、植栽管理や設備管理の委託項目の精査を行った。
		R5達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R8実績	

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

施設の老朽化、光熱水費の高騰に加え、半導体の不足による照明器具など修繕・更新に必要な消耗品類の入手が難しくなるなど、施設管理への影響が懸念される事態になっています。利用者への影響を最小限に抑えるために、日常点検の強化と関係各所との連携に重点的に取り組みました。

令和4年度 横浜能楽堂会計 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	176,485,000		176,485,000	176,485,000	0	
利用料金収入	14,800,000		14,800,000	12,989,435	1,810,565	
自主事業収入	37,191,000		37,191,000	39,781,853	-2,590,853	企画公演、普及公演が好調
横浜市による運営支援	0		0	3,073,000	-3,073,000	物価高騰に伴う支援金、負担金
雑入	29,280,000		29,280,000	23,888,402	5,391,598	
印刷代	50,000		50,000	5,710	44,290	
自動販売機手数料	600,000		600,000	257,298	342,702	
その他(コピー代、炭代)	400,000		400,000	190,760	209,240	
その他(開催協力金・助成金)	27,680,000		27,680,000	23,344,634	4,335,366	助成対象となる費用の実績により申請額から変動となっています。
その他(企業協賛金・寄附金)	550,000		550,000	90,000	460,000	
収入合計	257,756,000		257,756,000	256,217,690	1,538,310	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	86,496,000	0	86,496,000	77,816,212	8,679,788	
給与・賃金	70,831,000		70,831,000	63,641,797	7,189,203	5月以降職員1名減を補充せず、アルバイトで補ったため減額
社会保険料	9,920,000		9,920,000	8,753,162	1,166,838	
通勤手当	2,303,000		2,303,000	2,517,745	-214,745	
健康診断費	79,000		79,000	63,861	15,139	
勤労者福祉共済掛金	60,000		60,000	54,500	5,500	
退職給付引当金繰入額	3,303,000		3,303,000	2,785,147	517,853	
事務費	8,538,000		8,538,000	7,512,634	1,025,366	
旅費	240,000		240,000	331,688	-91,688	
消耗品費	1,500,000		1,500,000	1,919,745	-419,745	消火器一括更新のため
広告宣伝費	300,000		300,000	185,690	114,310	
印刷製本費	100,000		100,000	107,305	-7,305	
通信費	2,200,000		2,200,000	955,081	1,244,919	施設広報の発送業務を外委託としたため、直接の通信費実績が減額となりました
使用料及び賃借料	1,968,000		1,968,000	1,757,117	210,883	
横浜市への支払分	18,000		18,000	0	18,000	
その他	1,950,000		1,950,000	1,757,117	192,883	
備品購入費	0		0	293,765	-293,765	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	100,000		100,000	72,740	27,260	
職員等研修費	0		0	70,900	-70,900	
振込手数料	400,000		400,000	343,970	56,030	
リース料	1,180,000		1,180,000	1,179,792	208	
手数料	450,000		450,000	98,988	351,012	
雑支出	100,000		100,000	195,853	-95,853	
事業費	67,027,000		67,027,000	66,512,818	514,182	
自主事業費	67,027,000		67,027,000	66,512,818	514,182	
管理費	70,400,000		70,400,000	74,792,896	-4,392,896	
光熱水費	12,300,000		12,300,000	19,004,974	-6,704,974	各光熱水費の料金高騰による
電気料金	7,400,000		7,400,000	12,987,903	-5,587,903	
ガス料金	3,300,000		3,300,000	4,525,990	-1,225,990	
水道料金	1,600,000		1,600,000	1,491,081	108,919	
清掃費	0		0	0	0	
修繕費	3,000,000		3,000,000	216,700	2,783,300	大規模改修工事を鑑みて最小限の修繕にとどめた。
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	55,100,000		55,100,000	55,571,222	-471,222	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	0		0	0	0	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	55,100,000		55,100,000	55,571,222	-471,222	
共益費	0		0	0	0	
公租公課	8,890,000		8,890,000	9,444,747	-554,747	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	8,830,000		8,830,000	9,399,500	-569,500	
印紙税	40,000		40,000	22,400	17,600	
その他	20,000		20,000	22,847	-2,847	
事務経費	16,405,000		16,405,000	16,405,000	0	
本部分	16,405,000		16,405,000	16,405,000	0	
当該施設分	0		0	0	0	
支出合計	257,756,000		257,756,000	252,484,307	5,271,693	
差引	0		0	3,733,383	-3,733,383	